

米文学作品を教材として中学校・高等学校の
英語教育に導入することで得られる効果
—*Adventures of Huckleberry Finn* から学べること—

文学部文学科英米文学専攻

おがわ まきの
小川 蒔乃

序論

平成 29 年～ 30 年に、学習指導要領が改定された（以下、新指導要領）。新指導要領改訂のポイントとして挙げられているのが、「『生きる力』の育成を目指し資質・能力を三つの柱—①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力、③学びに向かう力、人間性等—で整理、社会に開かれた教育課程の実現」である。文部科学省によると、「これからの社会が、どんなに変化して予測困難な時代になっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。」という思いが込められていて、それを実現するために「主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）」を行う必要があると述べられている。これを軸とし、英語の学習指導要領も変化した。中学校では、「外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考え方を理解したり表現したり伝えあったりする」、高等学校では、「外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝えあったりする」という内容に改訂された。このように大きく変わった新指導要領は革新的であるといえるのかもしれない。

しかし一方で、こういった意見もある。3つの柱の中の思考力、判断力、表現力、学びに向かう力、人間性等をどう評価するのか。森田美芽は 2022 年に以下のように指導要領について評している。

現場においては、児童生徒一人一人を適切に評価することの困難さと、物理的に手間や時間がかかることへの懸念が表されている。逆に言えば、「何を評価するか」によって教育内容も決まるわけだが、その評価の対象が、目に見えにくい「意欲」や「主体性」といったものである場合、それをどこまで客観的な力として評価可能なものであるかは決して単純ではない。観点別評価には、観点ごとの様々な評価方法を用意する必要があるが、たとえば「意欲」にしても、「関心」にしても、外側から測ることは難しく、単純に授業中に聞いているか、居眠りをしていないか、などはある程度見えても、そのことだけで測ることは危険である。[・・・]つまり、評価はあくまで一人の人間の一部分をある基準で見た場合の評価でしかない。それを全体的なその子ども自身に関わる部分まで評価の対象にすることは、困難というより不可能である。このことに困難を覚えるのはむしろ当然であろう。

（森田 5）

確かに、知識や技能は定期テスト等で評価することができるだろう。しかし一方で、判断力や学びに向かう力、ましてや人間性をどのように評価するのか。これが新指導要領の大きな問題といえるだろう。では、こういった問題をどのようにすれば改善できるのか。この解決策が米文学作品を授業で扱うことなのではないかと私は考えた。

本論の第 1 章では、英語教育の変遷と中学校・高等学校の教科書の現状を分析し、現在の中高の教科書でこういった内容が扱われているのかを調査した上で、こういった米文学作品

が好ましいのかを考察する。第2章では、第1章で教材としてふさわしいと考えた *Adventures of Huckleberry Finn* の教材としての魅力を、①作品内での英語表現、②異文化理解、③主人公の人物像の違いの3つの観点から述べる。その3点に加えて、この作品の最大のポイントである Chapter 31 について第3章で考える。辞書での「良心」とハックの「良心」の違いや、作品におけるハックの「良心」の変化、さらにハックの「良心」の変化が生徒にもたらす効果について意見を形成する。最後の第4章では、原文で読むことの大切さを述べたのち、実際に教材として文学作品を扱う際どのように用いればよいかを学習指導案にまとめる。そして最終的に、先に引用した新指導要領で重視されている3つの柱をどう評価できるのか、米文学作品を教材として用いた際の教育効果を明らかにしていく。

第1章 中学校・高等学校の英語教育の現状

1. 英語教育の変遷

中学生・高等学校生に英語を教えるにあたり必要となってくるのが教科書である。昔の教科書の内容はどのようなものであったか。明治時代の日本の英語教科書について、以下のように述べられている。

明治の日本では、舶来リーダーの文学作品が西洋文化の伝達者だった。明治中期から一世を風靡した *New National Readers* (1883・84年) を見ると、巻を進めるごとに文学作品が増えていく。全5巻の語彙が12,000語以上あり、最終巻は480ページ全100課の大冊で、シェークスピア、ディケンズ、ホーソン、スコット、アーヴィングなどの名作がひしめいている。英詩も34編あり、テニスン、ロングフェロー、ポー、グレイなどが目白押し。さながら英米文学選集の趣がある。こうした傾向は他の舶来教科書でも同様だ。

こうして旧制中学校の上級や高等学校では、さらに難解な作品を読むようになる。なかでも Samuel Johnson の *Rasselas*、Macaulay の *Lord Clive*、Southey の *The Life of Nelson* などの英雄伝記ものや、Irving の *The Sketch Book*、Carlyle や Emerson の論文集などが好まれた。今日の大学院レベルの英文を読んでいたのである。[・・・]

こうした教科書で鍛えられれば、原書も怖くはなかった。文明開化を急ぐ明治の人々にとって、文学作品の訳読は西洋人のものの見方や風物を知るための「実用的」方法だったのである。

(江利川 74-75)

明治時代の英語教育においては、いわば英語＝文学であり、英語教育に欠かせないものだったと言えよう。昭和期になると、エッセイ風小説が人気になるなど、好まれる作風に変化はありつつも、文学というものに触れる機会は少なからずあった。しかし平成を迎えると、学生の文学離れはますます顕著に表れる。平成15年(2003年)に文科省が発表した『『英語が使える』日本人の育成のための行動計画』では、「中学校・高等学校を卒業したら英語で

コミュニケーションができる」という目標を掲げていることからわかるように、4技能を総合的に使う授業を行うと言いつつも、「コミュニケーション」という言葉を頻繁に使い、話すことに重点を置いた授業展開が望まれていた。

2. 現在の中学校・高等学校の英語教科書の内容

では現在の英語教科書はどうか。先にも述べたように、①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力、③学びに向かう力が重視されている今の時代、英語の教科書の内容はどうなっているのかを知るために、都内の公立中学校と都立高等学校の両方で使用率が高い、三省堂と東京書籍の教科書の内容を調査した。調査する中で、出てくるトピックを1. 文学的内容、2. 社会問題的内容、3. 異文化理解的内容、4. その他の4つの内容に分けた。結果は以下のとおりである。

<表1 公立中学校・都立高校で使用されている英語教科書の内容>¹

	1.文学的内容	2.社会問題的内容	3.異文化理解的内容	4.その他
中学校 三省堂	1	1	4	1
中学校 東京書籍	0	2	4	2
高等学校 三省堂	0	3	3	2
高等学校 東京書籍	0	2	4	4
合計	1	8	15	9

表を見ると、圧倒的に異文化理解的内容が多いことが分かる。様々な国の文化を学ぶだけでなく、日本の文化を英語で紹介するトピックもある。社会問題要素のあるトピックは、水不足や児童労働、AIに関するものなど、多岐にわたっていた。また中学校より高等学校の方が社会問題に関係した内容が多かったのも印象的だった。その他には、将来の夢を話したり偉人の成した功績を発表したりするトピックが含まれる。以上の教科書の内容から、海外の文化を理解する、そして現代に通ずる社会問題にも向き合うという2つの目標があることが分かった。では重要視されている異文化理解と社会問題の内容をどちらも網羅できるものはないのか—それが文学作品なのではないかと私は考えたのだ。

第2章 *Adventures of Huckleberry Finn* の教材としての魅力

では、①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力、③学びに向かう力、人間性等を養うことができ、異文化理解、社会問題を理解する内容も含まれている米文学作品とは何か。私はマーク・トウェイン (Mark Twain, 1835-1910) の *Adventures of Huckleberry Finn* なのではないかと考えた。1876年に発行された *The Adventures of Tom Sawyer* ではあくまでもトム・ソーヤ (以下トム) が主人公であり、ハックルベリー・フィン (以下ハック) は脇役といった形だった。そんなハックを主人公にして、1885年に出版されたのが *Adventures of*

Huckleberry Finn である。この作品をアーネスト・ヘミングウェイ (Ernest Miller Hemingway, 1899-1961) は著書の *Green Hills of Africa* で「あらゆる現代のアメリカ文學は『ハックルベリー・フィン』というマーク・トウェインの一篇の作品から出ているのです」(ヘミングウェイ 24) と述べるほど、名高い作品である。このような作品が具体的にどのような点で教材として優れているのか。また、数多ある他の米文学作品との違いは何か。私が考察する3点を次の節から述べる。

1. SE (Standard English) でない英語

1点目は、*Adventures of Huckleberry Finn* に使われている英語である。前章の第2節で挙げたような、今現在中学校・高等学校で使われている英語の教科書は、SE (Standard English) で書かれている。SEとはOEDで“the variety of English regarded as typical of the educated speech of southern England, and most widely accepted as standard”と定義されていることからわかるように、教養のある話し方(“educated speech”)で典型的(“typical”)な文章、つまり現代で英語を話したり書いたりする時に使う英語のことである。よって多くの文学作品がSEで書かれているが、*Adventures of Huckleberry Finn* はどうであろうか。ここでは主人公ハックと黒人奴隷のジムの会話文を引用する。

“Hello, Jim!” (H) ² and skipped out.

He bounced up and stared at me wild. Then he drops down on his knee, and puts his hands together and says:

“Doan’ hurt me — don’t! I hain’t ever done no harm to a ghos’. I alwuz liked dead people, en done all I could for ‘em. You go en git in de river agin, whah you b’longs, en doan’ do nuffn to Ole Jim, ‘at ‘uz awluz yo’ fren.” (J)

[…]

“It’s good daylight, Le’s get breakfast. Make up your camp fire good.” (H)

“What’s de use er makin’ up de camp fire to cook strawbries sumfn better den strawbries.” (J)

“Strawberries and such truck,” I says. “Is that what you live on?” (H)

“I couldn’ git nuffin else,” he says. (J)

(52; 強調筆者)³

違いは一目瞭然であろう。ハックが話す英語は確かに“Le’s”や“I says”など、ところどころ綴りや文法的な間違いがあるものの、概ねSEが使用されている。一方で、ジムが話している英語は、“always”を“alwuz”、“nothing”を“nuffin”と綴るなど、今では伝わらないものやなじみのない綴りの英語が多く登場している。またこれが顕著に表れているのは、下線部であろう。ジムの発言のなかでは“strawbries”と間違った綴りで書かれているが、ハックの発言では“strawberries”と正式に綴られている。このことから、トウェインはハックとジムの英語の表現に意図的に差をつけていると考えられる。生徒たちにとって、このような英語は新鮮であり、初めて目にする生徒がほとんどだろう。今は使われていない英語に触れること

で、普段学んでいる英語とは違った形の英語を知ることができると共に、「なぜこのような英語が使われているのか」という問いをさらに発展させ、「ジムは黒人奴隷であるから、読み書きの力が十分でないのではないか」という議論につなげることができるのだ。

2. 異文化理解 — 奴隷制度に対するトウェインの思いから鑑みる —

前章で、現在の英語教科書には異文化理解を促す内容が多いと述べたが、文学作品もその役割を果たすのではないかと考える。本文を引用する前に、異文化理解の定義について考察する。森谷は「①国外のものとしての『異文化』、②言語を通じた意思疎通としての『異文化理解』、③国内のものとしての『異文化』」（森谷 172）と3つの観点から異文化理解を意味づけている。以上の3つは、森谷が実際に夜間定時制高校に勤める教員7人にインタビューした結果を踏まえて出した結論である。そのため授業でグループワーク等の言語活動を行う場合の異文化理解の定義だと読み取ることができる。では文学作品を読むことで得られる異文化理解とは何だろうか。私は作品が書かれた歴史的状況から見る異文化理解（以下、状況的異文化理解）なのではないかと考える。

当時の状況を表している箇所です。特に注目したいのが、Chapter 6においてハックの父が以下のように述べている場面である。

'Oh, yes, this is a wonderful government, wonderful. [...] It was 'lection day, and I was just about to go and vote, myself, if I warn't too drunk to get there; but when they told me there was a State in this country where they'd let that nigger vote, I drew out. I says I'll never vote agin. Them's the very words I said, they all heard me; and the country may rot for all me - I'll never vote agin as long as I live.

(36-37)

おう、ごりっぱな政府だとも。[...] その日は選挙の日で、おれは投票に行くつもりだった。へべれけに飲みすぎて投票所にたどりつけなかっただけの話さ。けど、この国で黒ん坊に投票させる州があると聞いたとたん、おれはやめたね。二度と投票なんぞするもんかってんだ。ああ、そう言ったとも。聞いたやつは五人や一〇人じゃねえぞ。この国がどうなろうが知ったことか。死ぬまで二度と投票なんかしねえぞ。

(上 87-88)⁴

注目したいのは、黒人を罵っている描写である。この文章からハックの父は、黒人が選挙に出るなんてありえない、という思想を持っていることが読み取れる。ではハックの父はなぜこのような発言をしたのか。それは実際にこの物語の舞台となった1830-1840年代のアメリカの情勢が関わっていると考えられる。この時代、アメリカ北部と南部で奴隷制をめぐる対立が起きていた。南部側は、北部の人々が綿花等の売買により莫大な利益を得たことに南部の人々が怒り、南部が後退傾向にあるのは北部の人々が原因である、という主張、一方北部側は、昔から続いている奴隷制こそ南部の後退の所以であると述べた。1819年のミズーリ協定以降、奴隷制を廃止しようと動く北部と、懸命に擁護する南部との対立がさらに激しく

なった。また、奴隷制はすでに1850年までで200年ほど続いていた制度であり、トウエインの生まれた時からすでに奴隷制は始まっていたことが分かる。本城精二は当時のトウエインの作品と奴隷制について以下のように述べている。

作中では1840年代後半の奴隷制度を容認していた地域を背景としている。具体的に言えばミズーリ州とアーカンソー州である。奴隷制度について南北の対立が激化している時代背景を巧妙に描いている。また作者の自伝の中に、「小学生の頃は（中略）奴隷制度というものに何か問題点があると考えてもみななかった」と記されているように何の疑問も抱くことなく、当然のこととして受け止めていたのである。しかし後年になってトウエインは自由、人権、奴隷制度などの問題意識を持つようになり、「悲劇が起こるたびに、それをすべて自分の問題として心に受け止め、その意味を心に刻み込んでいった」と記しているのである。黒人に悲劇が起こるたびに心が痛んだことを自伝に記している。[・・・] 奴隷制度が敷かれていた時代の南部では、黒人に自由などあるはずもない社会背景を描きながら、中心人物であり、語り手でもあるハックを通して、皮肉を込めて自由の意義を高らかに示しているのである。

(本城 91)

確かに、私も本城同様、トウエインは奴隷制度が当たり前のこととして過ごしてきたが、彼自身生きていく中で奴隷制度をはじめとしたさまざまな問題に気が付き、それを物語に反映したのが *Adventures of Huckleberry Finn* なのだと思う。しかし「皮肉をこめて自由の意義を高らかに示している」という点においては異なる意見を示したい。トウエインは「自分の問題として心に受け止め」たからこそ、あえてこのような時代もあったのだと示すことで二度と奴隷制度を起こすまい、という思いを読者に伝えたかったのではないか。

さらにハックとジムの会話文にも奴隷制度に対するトウエインの思いが表れていると考察する。以下、Chapter 8のハックとジムの会話を例に挙げる。

Then I told him the whole thing, and he said it was smart. He said Tom Sawyer couldn't get up no better plan than I had. Then I says, 'How do you come to be here Jim, and how'd you get here?'

He looked pretty uneasy, and didn't say nothing for a minute. Then he says, 'Maybe I better not tell.'

'Why, Jim?' (H)

'Well, dey's reasons. But you wouldn't tell on me ef I'uz to tell you, would you, Huck?'(J)

'Blamed if I would, Jim' (H)

'Well, I b'lieve you, Huck. I-I *run off*.' (J)

'Jim!' (H)

(53)

ここには脱走したという事実をハックに打ち明けるジムの様子が描写されている。短文の会話でこれだけ2人の驚いた様子や緊迫感を表現できるトウェインの技巧には脱帽だが、それと共に私が注目したのは、ジムの発言の多さである。通常ジムの奴隷という立場を考えれば、ハックよりも地位は下であるため、ジムに命令する機会が多く見られる、逆を言えば奴隷のジムは発言する機会は少ないと予想できる。しかし、この作品では上記の通り、ハックとジムがまるで同じ身分かのように、対等に会話をしている様子が読み取れる。このことから、トウェインは奴隷制度廃止に反対していた南部においても相手を下に見ることなく話すことができる環境を望んでいたのではないかと考えることができる。

では第1章第2節で紹介した、現代の英語の教科書における異文化理解の内容と、私が提唱する状況的異文化理解は何が違うのか。前者はただ単に海外の文化について学び、どのような点が日本の文化と異なっているのかを理解させるものであった。これだけでは他国の文化を知識として得られることはできても、文章を読んだだけで終わってしまうために、深く考える機会が失われたり、情報を整理・判断したり自分で表現したりする場面—3つの柱で言うと②判断力、思考力、表現力にあたる—が少なくなってしまう。一方で文学作品を読むとどうだろう。読者の私たち、そして生徒たちにとって時代背景や国の歴史を知ることができるだけでなく、日本との違いや、作者の生きた時代やそれに関連する思いを踏まえた上で、奴隷制度についての考えを述べたり、現代の私たちが昔の人々の思いや状況について意見を共有したりすることができる。これは文学作品でしか得られない学びであると共に、新指導要領で重視されている項目も補うことができる。以上から、異文化理解の中でも、状況的異文化理解が現代の英語教育には求められていて、それを促すことができるのが文学作品なのではないかと私は考える。

3. トムとハックの人物像

第1節、第2節では英語の表現と異文化理解について述べた。これらは確かに現在の教科書でも得られるものかもしれない。英語表現も昔の新聞記事を読めば古い英語に触れることはできる。異文化理解に関しても、BBC等のニュースを見聞きする、もしくはYouTubeをはじめとした、動画配信サイトを授業で使用したほうが生徒も身近であり、文学作品よりも優れているのかもしれない。しかし、作者という点ではどうだろう。作者がどのような思いで作品を書いたのか、登場人物の特徴と作者のバックグラウンドの関係などは文学作品を読むことでしか得られないものだろう。この章では *The Adventures of Tom Sawyer* と *Adventures of Huckleberry Finn* の本文を引用し、それぞれの物語の主人公、トムとハックのモデルに関するトウェインの記述に焦点を当てる。まずは *The Adventures of Tom Sawyer* の序文を引用する。

Although my book is intended mainly for the entertainment of boys and girls, I hope it will not be shunned by men and women on that account, for part of my plan has been to try to pleasantly remind adults of what they once were themselves, and of how they felt and thought and talked, and what queer enterprises they sometimes engage in.

(xix)

この本は少年少女向けではあるが、大人にもぜひページを繰ってもらいたい。というのも、いまは大人になった読者諸氏にも、かつての自分がどんなだったか、どんな風を感じ、どんな風に考え、どんな風にしゃべっていたか、そしてそのときになんと途方もないことに頭を突っこんだものだったか、ほほえましい心持ちで思い出してほしいという願いも込めて、この物語を書いたからである。

(13)

この序文からもわかるように、子供はもちろんであるが大人にも読んでほしいというトウエインの思いが強く表れている部分である。実際に児童文学に分類されることも多い作品であるが、これが作品の冒頭に書かれていることで、読者に対する彼の思いをより強くする効果があると感じるのだ。よってトム的人物像は、作者のトウエインを含めた大人たちの理想像なのではないか。大人が読み、自分の少年時代を振り返り、「トムのように自由に冒険できたら」と憧れを抱くことのできる人物像を主人公にしたのではないかと考えた。

一方でハックのモデルについてトウエインは次のように語っている。

『ハックルベリー・フィン』で、私はトム・ブランケンシップをあるがままに描いたつもりである。彼は無知で、体を洗うことがなく、腹一杯食べたこともなかった。だが、誰にも決して負けることのない善良な心をもっていた。自由な行動には全く制約がなかった。彼は村中で一子供であれ大人であれ一唯一の本当に独立した人間だった。従ってのんびりといつも幸せであり、他の子供たちの羨望の的だった。

(亀井 345-46; 強調筆者)

傍線部から、ハックは貧しく、教養がない人物をモデルにしていたことを読み取ることができる。また、波線部に注目するとハックのモデルとなった人物は、「無知」であるにもかかわらず、「善良な心」を持ち、「他の子供たちの羨望の的」であった。実際に存在する人物をモデルにしていることからわかるように、教養がない人物でも主人公になりうるというトウエインのメッセージが読み取れる。このようにあえて完璧ではない少年が冒険し、仲間と関わる上で成長していくことを踏まえると、ハックは現実にいる人物、つまり人間そのものを表していると思われる。

トムとハックの人物像の違いから考えると、理想的なトムよりも最初は未熟だったのに、どんどん成長して困難を乗り越えていくハックの方が人間味があり、より生徒自身の成長過程とリンクする。また、生徒自身もハックの気持ちを理解しながら英語を学ぶことができる。どちらの作品も世界的に有名であることは言うまでもないが、2人の違いから見ても、英語教育に用いる文学作品として *Adventures of Huckleberry Finn* の方がふさわしく、教材としての魅力が多いのではないだろうか。

第3章 「良心 (conscience)」との葛藤 — Chapter 31 で迫られる決断 —

第2章では、*Adventures of Huckleberry Finn* の教材としての魅力について述べたが、この作品の中で、もう1つ注目したい点がある。それは Chapter 31 に登場するハックの「良心 (conscience)」についてである。この章では、ジムがいないと気づいたハックが、道で出会った少年にジムを見なかったか聞き、ジムの居場所を知ることになる。教えてしまったらジムは一生奴隷の身。そこでハックはジムの居場所を教えるか否か、決断を迫られる。この時にハックをむしばむのが「良心」なのだ。第3章ではハックの「良心」について考察する。

1. ハックの「良心」の正体は？

この問題を考えるにあたり、最初に「良心」の辞書での意味を確認する。『デジタル大辞泉』によると、「良心」は「善悪・正邪を判断し、正しく行動しようとする心の働き。」とある。OED (*Oxford English Dictionary*) でも、“the part of your mind that tells you whether your actions are right or wrong” と定義されている。ポイントは「正しく (right)」という言葉にある。では、ハックの思う正しい行動とはどのようなものだったのだろうか。亀井俊介が「学校や教会の教えとか世間の常識にそむき、また結局は自分に親切にしてくれていたミス・ワトソンを裏切って、逃亡奴隷を助けるようになったことで、彼は「良心」の呵責を感じるのである」(亀井 374) と述べているように、ハックにとっての正しい行動とは、学校や教会の教えをはじめとした世間の常識に従うことだったのだ。これは本文中でも読み取れる。

It made me shiver. And I about made up my mind to pray; [...] Why wouldn't they? It warn't no use to try and hide it from Him. [...] I was trying to make my mouth *say* I would do the right thing and clean thing, and go and write to that nigger's owner and tell where he was; but deep can't pray a lie—I found that out.

(227)

そう思ったら、ガタガタ震えが来た。お祈りしようかと思いかけたぐらいだった。[...] なんて言葉が出てこねえんだろう？それはつまり、神様から何か隠そうとしても無駄ってことなんだ。[...] どんだけ口で、正しいことをします、良いことをします、あの黒ん坊の持ち主に手紙を書いて居場所を知らせます、と言おうとしたって、心の奥底でそんなの嘘だってわかってたし、神様もそれを知ってたんだ。嘘のことはお祈りできねえ。

(下 162)

以上のことから、この時点では神に従うことがハックにとっての正しい行動、つまり「良心」の正体であったことが分かる。この後、ハックはどうすればよいのかわからなくなるものの、一度ジムの居場所を書き残した手紙をミス・ワトソン宛に書く。するとハックは“I felt good and all washed clean of sin for the first time I had ever felt so in my life, and I knowed

I could pray now.” (227) 「おいらはすごくいい気分で、罪がすっかり帳消しになった気がした。」(下 163) と発言する。ハックが自分の「良心」に背くことなく行動したおかげで、手紙はミス・ワトソンにわたり、ジムは捕らえられ再度奴隷の身に —— そうはならないところに Chapter 31 の魅力が詰まっているのだ。

ハックは最終的に “All right, then, I’ll go to hell’ — and tore it up.” (228) 「『いいや、おいら、地獄に行く』—— そんで、おいらは手紙を破った。」(下 164) と言い、ジムを助けに行く決断をする。この数ページの間、どんな心境の変化があったのだろうか。手紙を書いた後からのハックの思いを引用する。

I felt good and all washed clean sin for the first time I had ever felt so in my life, and I knew I could pray now. But I didn’t do it straight off, but laid the paper down and set there thinking —— thinking how good it was all this happened so, and how near I come to being lost and going to hell. [...] But somehow I couldn’t seem to strike no places to harden me against him, but only other kind. [...] and at last I struck the time I saved him by telling the men we had small-pox aboard, and he was so grateful, and said I was the best friend old Jim ever had in the world, and the *only* one he’s got now; and then I happened to look around, and see that paper.

(227-28; 強調筆者)

おいらはすごくいい気分で、罪がすっかり帳消しになった気がした。生まれて初めて味わう気分だった。これならお祈りできると思った。けど、すぐにはお祈りせずに、手紙を下に置いて、そこに座ったまんま考えた。こういうことになってほんとよかった、自分は地獄にどんだけ近いとこまで落ちてたか、って。[...] どこを思い出しても、なんでかジムのことを通報しちまおうって気になれることは一個も思いつかなかった。[...] そんで、最後に、おいら、筏に天然痘の人間が乗ってるって言って男たちを追っばらってジムを助けたときのことを思い出した。あんとき、ジムはすげえ感謝して、おいらのことを、ジムの一生でいちばんの友だちだって言った。いまのジムのたった一人っきりの友だちだって言った。そこまで考えて、ちょっと横を見たら、さっきの手紙があった。

(163-64; 強調筆者)

ジムに感謝されたこと、ジムが友達と認めてくれたこと、ジムと一緒に過ごしたすべての時間がハックにとってはかけがえのないものであった。つまりハックの中で、「良心 (conscience)」の意味が、もともと持っていた神の教えに従うという「良心」から、自分にとって大切な人を裏切らないという「良心」へと変わったために、ジムを助けるという決断に至ったのではないかと考える。

2. ハックの行動が与える教育効果

では、このハックにとっての「良心」が持つ意味の変化は、英語教育に、そして生徒にど

のような影響をもたらすのであろうか。私は2つの効果があると考え。1つ目は言葉の意味は辞書に載っているものがすべてではないという学びである。前節で「良心」の意味を調べたが、ハックの物語内での行動や心情の変化に注目すると、新たな意味を見出すことができた。これをグループワークや全体での発表を行うことによって、自分自身では思い浮かばなかった意見が出てくるかもしれない。普段から言葉の意味を考えさせるような活動を、文学作品を用いて展開することができれば、日常で使う言葉についても意味を考えて発言するようになったり、わからない言葉や単語の意味を調べる習慣が付き、複数の意味を覚えることができたりと生徒にとってプラスの効果が期待できる。このようにして豊富な意見を形成し共有できるという効果がある。2つ目は、生徒自身の今の考えとハックの心情の変化を関連させられる点である。ハックはジムを助けるか悩み、葛藤した上で最終的な決断をした。何が最善か、どうしたらうまくいくのか、常に何かと戦い、その度に悩み、不安になる。このような思いを10代の生徒も抱えているのではないだろうか。2018年の文部科学省の調査では、中学生の81.2%、高等学校生の84.9%が何かしらの悩みを抱えており、そのパーセンテージは年々増加傾向にある。悩みの内容は多岐にわたるが、主な理由として進路や部活、勉強や友達等が挙げられる。生徒の感情の変化がハックの「良心」に対する思いの変化とリンクすることにより、生徒がハックに共感を覚え、学校生活を送る中で不安や迷いを感じるのは当たり前である、と認識させることができると考える。*Adventures of Huckleberry Finn* は前に述べた英語という教科としての学びをもたらすだけでなく、学校生活で生徒が直面する困難にも寄り添ってくれることから、道徳教育にも効果があるのではないか。

第4章 教材として文学作品を扱うということ

1. 原文で読むことの大切さ — Penguin Readers と比較する —

第3章で述べた通り、英語表現の違いや異文化理解、主人公の人物像の違いからしても、教材として効果的である。しかし一方で、実際に原文を読むとなると、長文になってしまうことや使われている単語の難易度等の関係で、中学生・高等学校生のレベルには適さない場合がある。そのため、CEFR⁵別に、物語が簡略化されたものがPenguin Readersとして中高生向けに出版されている。*Adventures of Huckleberry Finn* のPenguin Readers版はA1+レベル（英検3級～準2級）で作られている。確かに英語のレベルだけで言えば中学生・高等学校生が読む文章として適しているといえる。では内容面ではどうだろうか。まず、Chapter 1の第1段落を比較する。原文を以下に引用する。

You don't know about me, without you have read a book by the name of The Adventures of Tom Sawyer, but that ain't no matter. That book was made by Mr Mark Twain, and he told the truth, mainly. There was things which he stretched, but mainly he told the truth. That is nothing. I never seen anybody but lied, one time or another, without it was Aunt Polly, or the widow, or maybe Mary. Aunt Polly - Tom's Aunt Polly, she is - and Mary, and the Widow Douglas, is all told about in that book -

which is mostly a true book; with some stretchers, as I said before.

(7)

一方で Penguin Readers の最初の段落は、以下の通りである。

Do you know a book called The Adventures of Tom Sawyer? It is about me, Huckleberry Finn, my friend Tom Sawyer, and the village of St. Petersburg. We found \$6,000.

(7)⁶

違いは一目瞭然であろう。Chapter 1 の第 1 段落は、“Mark Twain” という作者自身の名前が出てくるとともに、日本語訳を見てみると、「マーク・トウェインって人が作った本で」(上 16) と作者であるトウェインのことをまるで他人かのように扱っていると共に、ハック自身が読者の私たちに語りかけているようにも感じられる、非常に特徴的で重要な場面である。この場面が Penguin Readers では省略されてしまっている。また、第 3 章で重要だと述べた Chapter 31 の内容も比較する。原文では、前章でも引用したため割愛するが、ハックが自分の良心と葛藤の末、ジムを助けに行くという主人公ハックの複雑な感情が約 4 ページにわたって描かれている。しかし、Penguin Readers では “It’s a bad thing to help him, I know, but I’m going to do it. Please don’t tell anyone.” (49) 「ジムを助けることは良くないことだって、わかっているんだ。でも、僕はやるんだ。このことは誰にも言うなよ。」(拙訳) という一文にまとめられてしまっているのだ。このような重要な場面が省略されてしまっていることにより作品本来の魅力が失われてしまうのではないか。もちろん生徒の学年、レベルによっては Penguin Readers のような容易な単語を使用して、中学生・高等学校生にとってわかりやすい作品の方が適しているのかもしれない。また、物語の概要をつかむには最適といえるだろうし、すでに習った単語や文法が使われているため、翻訳を使わなくても、英語で理解することができるのは大きな利点の 1 つである。ただ、原文とは大きく異なる内容が書かれている英語の本を翻訳なしに読むよりも、翻訳を参考にしながら読む原文の方が、圧倒的に効果があるのではないかと私は主張したい。なぜか、というのは第 2 章、第 3 章で述べた様々な魅力があるから、というほかない。Penguin Readers だとその魅力が見えてこないのではないだろうか。以上のことから、原文で読むことは米文学作品を教材として扱う時に重視しなければいけない点であり、重要な場面が多く削られてしまっている Penguin Readers は、教材としてふさわしいとは言えないと考える。

2. *Adventures of Huckleberry Finn* を教材として扱う際の学習指導案

前節までで *Adventures of Huckleberry Finn* が教材としてふさわしい理由を述べた。ここでは、今まで述べてきたことを踏まえ、実際にこの作品を使って授業を行うときの学習指導案⁷を以下に記述する。授業時間は 50 分、対象は中高一貫校の中学 3 年生、時期は秋ごろを想定した。理由は 2 点ある。1 点目は私自身 4 月から中高一貫校の英語教員として勤務するため、勤務先と似たような状況を想定したかったからである。2 点目は、この時期は中学校

3年間で学んだ英語の知識を踏まえ、高等学校のレベルに徐々にシフトする時期だからである。該当生徒にとって重要な時に米文学作品を読むことによって、知識を深めると共に3つの柱を意識した学びを実践し高等学校へ進んでほしいという思いからである。

時間	○言語活動等 (生徒)	○指導・援助 (教師) ◆評価<方法>
導入 (5分)	<p>○本を読むことについて、英語でディスカッションをする。</p> <p><発話例></p> <p>S1: “How often do you read books?”</p> <p>S2: “Sometimes. / Once a week. / How about you? How often do you read books?”</p> <hr/> <p>S1: What is the most favorite book?</p> <p>S2: My favorite book is ○○. The story of this book is ...</p>	<p>○英語で発話しているかどうか机間巡視をして確認する。</p> <p>○英語で会話ができなかった場合、教師が発話を促し、会話させる。</p> <p>◆読書の習慣について自分の意見を述べるができる。 (②表現力) ⁸</p>
展開 (40分)	<p>○教員の説明を聞き、<i>Adventures of Huckleberry Finn</i> の登場人物やあらすじ、作者のマーク・トウェインについて理解する。</p> <p>○<i>Adventures of Huckleberry Finn</i> のハックとジムの会話を読んで、二人が発言する英語の違いを理解する。またこの違いが何を表しているのかを考える。</p> <p>○第31章について考察する。翻訳も使いながら読む。第3章で引用した文章を使い、ハックの心情の変化を読みとる。</p> <p>○なぜハックの心情が変化したのか、まずは個人で考える。その後、グループワークで意見を共有する。また自分がハックだったらジムを助けるか否かを考える。</p>	<p>○この作品を理解する上で重要なポイントを説明し、生徒に理解させる。より分かりやすくするために、イラストや写真も使用する。</p> <p>◆物語の概要を理解できている。(①知識及び技能)</p> <p>○原文で2人の英語の違いが分かる文(第2章第1節で引用した文)を提示する。</p> <p>◆ジムが使っている英語が、普段使われている英語とは違うということを発見できる。またその違いが表す2人の身分の違いを考えることができる。(②判断力、思考力)</p> <p>○原文だけでは難易度の関係上、難しいと感じる生徒もいるため、翻訳を使用させる。その際、翻訳だけを読んで理解させるのではなく、あくまでも原文の補助的な役割として使用させる。</p> <p>◆ハックの複雑な心情の変化を考え、意見を形成し表現することができる。(②思考力、表現力)</p>
まとめ (5分)	<p>○この作品を読んで、感じたこと、考えたことを書く。また、英語で作品を読むことに関して面白いと思った点、難しいと思った点などをワークシートにまとめる。</p>	<p>○生徒がどのように感じたか、机間巡視をして読み取る。</p> <p>○何名かの生徒を指名し発言してもらう。米文学作品を読むことに関してどう感じているのかをクラス全体に理解させる。</p> <p>◆米文学作品に興味を持ち、今後の英語の授業により興味を持って取り組む姿勢を持っている。(③学びに向かう力、人間性等)</p>

導入部分では、アイズブレイクとして生徒にとって身近なトピックを使用し、簡単なペアワークを行う。いきなり作品の内容に入るのではなく、内容に関連するテーマかつなじみやすい話題を導入部分に用いることで、集中力を切らさず展開部分に入ることができる。ここでは自分の意見を英語で表現できているかを評価する。

展開部分では、登場人物の説明などをはじめとした作品の内容を説明した後、(1) 英語表現の違い、(2) 第31章のハックの心情の変化の2つを生徒に考えさせる。(1) ではハックとジムが会話をしている様子を原文で読ませる。そしてこの違いから何が読み取れるかを考えさせる。評価に関しては、まずは2人が話している英語に違いがあると判断できるかが重要である。さらにはジムが奴隷であるということ踏まえ、身分の違いから英語表現に差が生まれているということに気がつくことができたなら加えて評価をしたい。(2) については、作品を読んでいく上で非常に重要なポイントとなってくるため、一番時間をかけた点である。ただ、原文だけで読み進めていくには少し難易度が高いため、日本語訳も提示しながら読み進めていく。ここで大切なのが、翻訳を使う際、日本語だけを読んで読み進めてしまうことがないように教員が机間巡視をし、サポートすることである。あくまでも英語を英語で理解することは文学作品を読む上でも重視したい。今まで習ってきた単語や文法で理解できるところは原文で読み取る。その分難しい文法や、心情の変化を読み取る上で重要となる場面は、日本語訳を読みながら確実に理解させる。本題はここからである。このハックの心情の変化はなぜ起こったのかを考えさせる。本来であれば第3章で述べた神の教えや良心について読み取らせたいところだが、難易度が上がるとともに、時間配分的にも難しい。よって授業では心情が変化した理由を自分なりに考え、クラスメイトに伝えることに焦点を当てる。それに加え、もし自分がハックだったら、ジムを助けるか、それとも居場所を正直に伝えるか、それともまた違った行動をとるのかについてもグループワークで意見を共有する。評価のポイントは、まず心情が変化しているということを読み取れているかどうか、そして意見を形成し、相手に正確に伝えることができているかどうかの2点である。

最後のまとめ部分では、この作品を読んだ感想や難しいと思った点、次回はどんな作品を読みたいかについてワークシートに記入させる。簡単な内容ではないため、もちろん難しかった、という意見も出てくるだろう。しかし今後の目標は同じような難易度の高い作品を何回も読むことではなく、この作品をきっかけに、今後も米文学作品を読んでほしいということなのだ。そのためまとめの部分では、今後も米文学作品に興味を持ち取り組んでいく姿勢が見えるかどうかを評価したい。

結論

本稿では、全章を通じて中学校・高等学校の英語教育において米文学作品を取り入れることの大切さを述べてきた。しかし、現代の社会問題を議論する場合、米文学作品を読むよりも実際にそのトピックが扱われているニュースを見たり、新聞記事を扱ったりした方が生徒にとっても身近であり、なじみがあるのではないかと、という意見もあるだろう。ただ、例えば貧困問題について記述されている新聞記事を扱い、ディスカッションを行う場合、「貧困をなくすのが良い」「支援をすることが大切だ」など、一辺倒な意見が出やすく、議論が活

発にならない傾向にある。この原因として考えられる点が2点ある。1点目は意見を述べ非難されることへの恐れだ。先ほどの貧困問題を例に挙げると、ニュースや新聞記事を使った場合、「貧困をなくさなかった場合の意見を言いたいが、言ったら批判されてしまうのではないか」「大多数の意見はAだ。自分はBと思っていたがAにしよう」などと言う思考が働く可能性がある。これは実際に起こっている問題ゆえに生まれる恐れである。しかし文学作品であれば、あくまでも物語であるため、自由に考察することができると共に、違った意見を言っても実際に起こったことではないため批判される心配も少ないのだ。

2点目は実際に起こっていることに対して意見を言うことの躊躇だ。たとえ生徒がどれだけ有効な意見を言ったとしても、実際の状況を変えられるわけではない。それであれば何を言っても変わらないだろう、という考えが働き、自分事として捉えるのが難しく、とりあえず意見を出すという思考に至りやすい。それと比べて文学作品はどうだろう。「自分が主人公だったらどうだろう」「貧困の状況を変えることはこの場合必要ではないのかもしれない。貧困の状態があったからこそ彼との出会いがあったのだ」といったように、実際のニュースや新聞記事を使うよりも、豊富な意見形成ができる。このおかげで学習指導案にも記載したように、「クラスメイトはどういった意見なのだろう」「次はもっと違った文章を読みたい」という意欲的な姿勢、つまり一番評価するのが難しいと言われていた③学びに向かう力の評価にもつながるのではないか。

以上の通り、米文学作品を教材として活用することによって、英語表現や時代背景、登場人物の心情や作者の思いを読み取ることができる。このことから、英語の基礎知識はもちろん、単に Yes/No で判断するのではなく、「こういった考えもある」「この視点で考えたらどうだろうか」などといった自分の意見を形成しやすく、主張しやすいという効果がある。それに基づき、新学習指導要領で重視されている3つの柱、①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力、③学びに向かう力、人間性等を評価することができると考察する。

注

- 1 表内の数字は、その内容に値するトピックがいくつあったかを表している。教科書の詳細は引用文献を参照。
- 2 (H)：ハックの発言 (J)：ジムの発言
- 3 本稿における *Adventures of Huckleberry Finn* の原文はすべて Mark Twain, *The Adventures of Huckleberry Finn* (Penguin Books, 1985) から引用し、括弧内にページ数を記す。また、1885年に出版された初版の題は *Adventures of Huckleberry Finn* であるが、入手しやすい Penguin Books 版の題は、*The Adventures of Huckleberry Finn* となっているため、上記の通り表記している。
- 4 本稿における *Adventures of Huckleberry Finn* の日本語訳はすべて土屋京子訳『ハックルベリー・フィンの冒険 (上)』『ハックルベリー・フィンの冒険 (下)』(光文社, 2014) から引用し、括弧内にページ数を記す。
- 5 Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment の略。文部科学省が出した、A1、A2、B1、B2、C1、C2の6段階に分かれている。(C2が1番高いレベル。)しかし、今回引用した Penguin Readers は、A1からC1までの5段階に分かれていた。その理由として、あくまでも中学生・高等学校生向けに作られているため、流暢な自己表現力に焦点

をあてている C2 レベルは割愛されていると考えられる。

- 6 本稿における Penguin Readers の文章は、すべて Mark Twain, *The Adventures of Huckleberry Finn*, Penguin Books, 2020 (Penguin Readers ; level 2) から引用し、括弧内にページ数を記す。
- 7 学習指導案のテンプレートは、「新学習指導要領に対応した 学習指導案の書式例」(東京都教育庁 指導部義務教育指導課, 2019) の p. 71 を参考に作成した。
- 8 ◆評価<方法>の括弧内の記述は、新指導要領の3つの柱(①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力、③学びに向かう力、人間性等)を表している。

引用文献

- 「米国の歴史の概要—地域間の対立」American Center Japan アクセス日：2024年12月24日，
<https://americancenterjapan.com/aboutusa/translations/3480/>.
- “Conscience” *Oxford English Dictionary* アクセス日：2024年12月3日，https://www.oed.com/dictionary/conscience_n?tab=meaning_and_use#8570992.
- 「中学校 学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語編」文部科学省，平成29年7月。
江利川春雄『日本人はどう英語を学んできたか 英語教育の社会文化史』研究社，2008年。
ヘミングウェイ，アーネスト．『アフリカの緑の丘』三笠書房，1956年。
本城精二「アメリカの奴隷制度と南北戦争」『武庫川女子大学リポジトリ』国立情報学研究所 アクセス日：2024年12月24日，<https://www.bing.com/ck/a?!&&p=bae8cc736164d3b92d00e6cca71701cfc7b71927446c171cc0fe7d730190e306JmltdHM9MTczNTY4OTYwMA&ptn=3&ver=2&hsh=4&fclid=05c8b73b-f0d6-6b04-02eda73ef1aa6ab7&psq=%e5%8d%97%e5%8c%97%e6%88%a6%e4%ba%89+%e5%8c%97%e9%83%a8+%e5%a5%b4%e9%9a%b7%e5%8f%8d%e5%af%be+%e7%90%86%e7%94%b1&u=a1aHR0cHM6Ly9tdWtvZ2F3YS5yZXBvLm5paS5hYy5qcC9yZWNVcmQvMjA2Mi9maWxlcY9QMDgzLTEwMi5wZGY&ntb=1>.
- 「各資格・検定試験とCEFRとの対照表」文部科学省，平成30年3月。アクセス日：2025年1月30日，
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/091/gijiroku/_icsFiles/afieldfile/2018/07/27/1407616_003.pdf.
- 笠島純一・阿野幸一・小串雅則・関典明 他『NEW HORIZON English Course 2』東京書籍，2021年。
亀井俊介『マーク・トウェインの世界』南雲堂，1995年。
清田洋一 他『All Aboard! English Communication II』東京書籍，2018年。
「高校生の悩みや不安とその対処方法」文部科学省，2018年。アクセス日：2024年12月3日，
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2018/03/08/1360938_02.pdf.
- 「高等学校 学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語編」文部科学省，平成29年7月。
トウェイン，マーク．『ハックルベリー・フィンの冒険（上）』『ハックルベリー・フィンの冒険（下）』土屋京子訳 光文社，2014年。
森田美芽「未来の日本の教育のために—新学習指導要領に見る問題点とこれから—」『大阪キリスト教短期大学紀要 第63集』2022年。アクセス日：2024年6月18日，https://occ.repo.nii.ac.jp/record/93/files/kiyou63_01.pdf。
森谷祥子「英語教育は『異文化理解』につながるのか」『言語教育のマルチダイナミクス 多様な学びの方向性』明石書店，2024年。

根岸雅史 他『NEW CROWN 2』三省堂, 2021 年.

「令和 3～6 年度使用教科書採択地区別の採択結果（公立中学校）」東京都教育委員会, 2020. アクセス日: 2024年6月18日, https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/textbook/adoption_policy_other/adoption_result/results_2021_public.html.

「令和 4 年度使用 都立高等学校及び都立中等教育学校（後期課程）用教科書 教科別採択結果（教科書別学校数）」東京都教育委員会, 2021. アクセス日: 2024 年 6 月 18 日, https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/press/press_release/2021/files/release20210826_01/reference.pdf.

「良心」デジタル大辞泉 アクセス日: 12 月 3 日, <https://www.weblio.jp/content/%E8%89%AF%E5%BF%83#SGKDJ>.

霜崎實 他『CROWN English Communication II New Edition』三省堂, 2018 年.

「新学習指導要領に対応した学習指導案の書式例」『生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための指導資料』東京都教育庁指導部義務教育指導課, 2019 年. アクセス日: 2025 年 1 月 6 日, https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/document/global/files/junior_high/06.pdf.

Twain, Mark. *The Adventures of Huckleberry Finn*. Penguin Books, 2020.

———. *The Adventures of Huckleberry Finn*. Penguin Readers ed., Penguin Books, 1985.

———. *The Adventures of Tom Sawyer*. 本の友社, 1988.